

**認知症の症状は、病気の進行により変化します。
また、症状が変われば、その人が必要とする支援も変わります。**

【認知症の人の様子】

①気づき～軽度の時期

最初にももの忘れが目立ちはじめます。また、もの忘れとともに、何かを計画し、順序立ててやり遂げることが難しくなっています。

本人が認知症の症状を自覚し、不安に思っていることもあります。



②中等度の時期

いつ、どこで、なにをしたかの出来事を忘れるようになります。

日付や季節、年次の時間間隔がわかりにくくなり、自分がいる場所についても見当をつけることが難しくなります。

家事全般で支援が必要になります。また、着替えや入浴など、身の周りのことにも支援が必要になってきます。



③重度の時期

最近のことだけでなく、古い記憶も曖昧になってきます。人物についても見当をつけることが難しくなってきます。身の回りのこと全般で支援や介護が必要になります。

本人が大声で怒鳴ったり、落ち着かず手が出たり、介護を嫌がったりすることもあるかもしれません。これらの症状は、記憶障害など認知症の症状が進むと本人も不安となり、体調や慣れない環境、周囲の接し方も影響して現れると考えられています。

かかりつけ医などに医療面での対応を相談するとともに、本人への接し方の工夫を介護の専門職や介護経験者に尋ねてみてもよいでしょう。



- 認知症で一番不安や困難を感じておられるのはご本人です。
- 認知症に伴う症状には、認知機能の障害や取り巻く環境など様々な原因や理由があります。
- ご本人やご家族、周囲の方々には十分な配慮を行いましょう。

認知症(疑い)の方が受診した場合の参考資料

■ 気づいてつながる認知症ガイドブック 京都市



■ 心でつなく、地域でつつむ認知症 京都府



各ガイドブックの
入手問い合わせ先

各区役所・支所にて窓口で配布
「京都市 認知症ガイドブック」で検索

京都府高齢者支援課地域包括ケア推進担当
TEL:075-414-4573
FAX:075-414-4572
ダウンロードURL:
http://www.kyoto-ninchisho.org/?page_id=1503

認知症が疑われるサイン

- ☐ 財布、健康保険証や診療券など大事なものをなくすことがある。
- ☐ ものをなくしてしまうことが多くなり、いつも探し物をしている。
- ☐ 曜日や日付を何度も確認しないと忘れてしまう。
- ☐ 同じことを何度も繰り返し話したり、聞いたりする。
- ☐ 予約していることを忘れて無断キャンセルが多くなった。
- ☐ 会計時にいつも1万円札で支払うようになった。
- ☐ 季節にそぐわない服装をするようになった。
- ☐ 失敗を指摘されると隠そうとしたり、些細なことで怒るようになった。



KYOTO
DENTAL
ASSOCIATION

一般社団法人
京都府歯科医師会